# 黄蓮谷右俣アルパインアイス

2011/12/17～18

メンバー L 河崎、斉藤（記）

M&C パーティー L 杉山、岡崎、西本

1 年程前より黄蓮谷右俣は気になっていた。クライミングの難度的には上を行く左俣は、3 年前に登っているが、ベースからのワンデイアタックで登る左俣に対し、登攀距離が長い為、全装備を背負い甲斐駒の山頂へ抜ける右俣もまた、山屋として魅力的なルートだ。甲斐駒を遠望するとど真ん中を貫くそのラインはかっこいいの一言だ。例年の登高適期は 12 月の 1 週目から 2 週目で沢が氷結し、雪に埋もれる前のごく僅かな間にしか登る事が出来ない。今年は氷結が遅れに遅れたが、まとまった雪も降る事が無く、例年では雪に埋もれて登れない 12 月 3 週目のこの日、念願のチャンスに恵まれた。メンバーは河崎さんと私の山友会パーティーと、行動を共にする M&C パーティーである。

12/17 車止めである竹宇駒ケ岳神社から長いアプローチである黒戸尾根を五合目へ向けて歩き出す。五合目に着く頃にはすっかり汗だくになっていた。五合目にて休憩をとり、アイゼンを着けると谷へと下り始める。これから山頂へ抜けるまで日光を浴びる事が出来ないと思うと、日当たり抜群の五合目に未練が残る。沢床への下降路はいまいち分かりづらい。1 時間程で沢に辿り付くと、まだ、氷結しきらない黄蓮谷を踏み抜きに注意しながら遡行する。程なく坊主ノ滝へと着く。左俣を登った時は当然のように登ったこの滝も、この日のカギはどこまで足を伸ばすかに懸かっていた為、迷わず巻く事にする。右岸を巻き、目の前を横切るスラブ状の六丈ノ沢渡るが、途中で行き詰まり、ロープを垂らしてもらい事無きを得る。程無く現れる二俣を右俣へと入る。

何処までも続くナメ

登攀ラッシュとなった右俣

側壁や沢床に節理の大きい花崗岩が立ち並ぶ谷は100名谷である事が納得出来る。ナメや雪の斜面を登りつめると奥千丈ノ滝が現れる。トポでは200mのナメとあるのでロープを結び、登攀を開始する。少し登るとロープは要らなそうなのでロープをほどき登る。この辺りからバテはじめる。トレーニング不足とろくに軽量化をしていない重荷が祟る。軽量化の必要性を思い知らされる。奥千丈ノ滝を登りつめた所にテントを張りその日の宿とする。

12/18 ここからはひたすら雪の斜面を登りつめる。奥の二俣辺りから現れる連瀑を右側より巻き、尾根とのコンタクトラインをのぼりつめると、甲斐駒の山頂のやや左の登山道に飛び出した。5人で固い握手をかわした後、空身で山頂を踏みに行く。無風快晴に恵まれた山頂からの展望は素晴らしいものだった。間も無く、大きな充実感と共に日当たりのいい黒戸尾根を下降にかかった。

甲斐駒ケ岳山頂にて

鳳凰三山と背後に富士山

コースタイム

12/17 竹宇駒ケ岳神社 6:15～11:00 五合目

11:35～12:35 沢床 13:00～14:00 坊主ノ滝上

～14:15 二俣～16:25 奥千丈ノ滝上2230mBP

12/18　BP6:45～10:25 登山道 10:50～11:50

七丈小屋 12:25～13:00 五合目 13:20～16:10

竹宇駒ケ岳神社